



まちづくり風景

が踊られています。その他にも万国博覧会に出演後、和歌山県の「新宮やっさ踊り」、東広島市の「西条やっさ踊り」、海田町の「海田やっさ踊り」と「やっさ踊り」が地域交流の役目をしていることがよく分かり、踊りを通じての地域交流はこれからも広がってゆくと思われま

今の「やっさ踊り」の型はいつごろから出来上がってきたのですか？

万国博覧会出演以前の「やっさ踊り」は特に型がなく自分が楽しむという踊りでしたが、万国博覧会出演を期に人に見せる踊りに変化し、今の「やっさ踊り」が出来上がりました。

今後の「やっさ踊り」は？

その時創られた踊りが現在まで引き継がれておりますが「やっさ祭り」の1回目から28回目まで踊りの審査をしていると、時代とともに踊りの型が変わってきていることは感じられます。しかし「やっさ踊り」は、今や広島県の代表的な伝統郷土芸能です。今後も後世のために伝えてゆきたいと思っております。

現在では「創作やっさ踊り」も「やっさ祭り」には欠かせない存在になってきております。伝統ある「やっさ踊り」もやっさ祭りの華であり、これらの協演がより一層祭りを盛大で魅力あるものへと進展させております。「守りたい伝統」と「創りたい未来」とのコラボレーションが「やっさ祭り」の醍醐味のひとつであることは間違いありません。今年はどうな協演が私たちを魅了してくれるのでしょうか。

やっさトリビア

やっさ踊りの「大うちわ」は…万国博覧会出演の時、会場が広く音楽も聞こえにくく、目で列の最初から最後まで踊りを合わせるのが難しく、目で踊り手のリズムを合わせるため、三原市やっさ踊りと書いた「大うちわ」が創られました。

～活性化への扉～vol.3

【まちづくり団体編】

(社)三原青年会議所広報メディア委員会では、三原広域が活性化してゆくために誰が何をすれば良いのかを模索しています。若者編・駅長編に続き今月号では、三原市を中心に子育て支援の様々な活動をされている「こそだてアンテナGANBO」代表者 福島和加子さんへ活動内容、まちづくり団体としてのご意見を伺いました。



こそだてアンテナGANBO 代表者 福島和加子さん

GANBOの設立趣旨は何ですか？

5年前にGANBOを立ち上げたのは三原出身ではない3人の母親でした。子育てをしてゆく中で、地域の子育てに関する情報などを手に入れる手段がなく、自分達と同じように他県から移って来られたお母さん方やこれから子育てをしてゆく方に、何か役に立つ事が出来ればという思いで設立しました。

様々な活動をされていますが、主な活動内容をお聞かせください。

設立当初～現在まで『ゆけゆけ がんば』という子育て情報誌をこれまで17号発行しています。読むことで元気と勇気がわいてくるような子育てのヒントや、地域の子育て情報などを掲載しています。先日発行した最新号では、藤田県知事との対談記事も掲載しています。昨年は、「広島発 親子でお出かけ応援BOOK いこ！あそぼ！がんば！」を自費出版しました。その他にも、様々な角度からの子育て支援に取り組んでいます。

他団体との交流はありますか？

5年間活動を行ってきて民間は勿論ですが、行政で子育て支援に取り組んでいる児童福祉課、健康推進課、総合学習課、それに県立福祉大学といったいろんな専門的立場から子育てを支援してゆく専門機関と交流を重ねています。このネットワークを活かして、情報交換をしてゆく趣旨で、この度『三原子育てネットワーク』を立ち上げました。

まちづくりコーディネーターの配備はどう思われますか？

現在GANBOはボランティアセンターに登録させてもらってます。自分達がどんな活動をしてゆくかという前に、会自体を盛り上げていくにはどうしたら良いのかといった情報交換を他団体と共にできたらと思ってます。また、運営面だけでもコーディネーターの方がサポートして下さればとてもありがたいですし、

行いたい活動を形にしやすくなると思います。GANBOの活動をやってみて自分自身が変わったと思うところはどこですか？

男女参画の社会だと言っても、まだまだ結婚や出産を機に仕事を辞める方は沢山いらっしゃいます。その方の多くが、家庭に入った途端、社会との間に大きな壁を感じ孤独感を味わっているのも現状です。ですが、私はこの活動を始めて、子どもを持つことは社会との大きな壁を生む足かせでは決してなく、子育て中の今だからこそ見えてくるもの、感じるもの、そして可能なことがあるんだということが分かりました。母親である今の自分自身の足で、社会の中に立っているという実感を多少なりとも持てたような気がしています。

今後の目標は何ですか？

支援していく中でお母さん方に伝えてゆきたいのが、子育てには色々な選択肢があるということです。親も100人いれば100通りの子育てがあります。「こうでなければならぬ」と頑なにならなくても、漠然としていても「子どもがこういう風に育っていけばいいな」という思いを持っていれば良いと思います。そうすれば、子育ての選択肢もおのずと増えるでしょうし、柔軟に子育てのアドバイスも受け入れられますよね。でもやはり、子育ての責任は親にあると思いますので、あらゆる選択肢の中から最終的な判断をするのも親が行うべきだと思います。その選択肢を示していくのもGANBOの役割かなと感じています。また、昔は近所のおじさんやおばさんが子ども見守ってくれていましたよね。学校の帰りに声をかけてもらったり、普段の生活の中でも会話があって、色んなことを教えてもらっていたような気がします。「子育て支援」という言葉がなくても、自然に子育て支援し合っていたんですね。ですが、今は世の中がだんだん物騒になってきて、顔見知りさえも信頼できにくくなってきています。子ども達も防犯ブザーを携帯するほどに。核家族が多い今、地域の方々をはじめ、人と人が信頼関係でつながり、「子育て支援」がなくても子ども達が幸せに過ごせ、安心して子育てができる社会になっていくよう微力ながら活動していきたいと思っています。

活動を開始して5年間に情報誌を17号、お出かけ情報誌の自費出版、学校週5日制をテーマとしたパネルディスカッションと様々な活動をされていることに感銘を覚えました。しかし、こそだてGANBOのように活発に活動されている団体でも情報交換や運営面でのサポートを必要としているのが実情です。三原市だけでも252のまちづくり団体がありますが、その団体をコーディネートする専門職がないのが現状です。ペアシティ西館の空床に計画されている、まちづくり施設を造る際にまちづくりコーディネーターといった専門職を配備してゆけば、まちづくり団体が活性し、人と人との交流が盛んになり、みはらの活性化に繋がってゆくのではないのでしょうか。

Table listing various organizations and their contact information, including names like 晃栄不動産, 廣愛不動産, 廣愛不動産, etc.